論文番号 2026-3-7

# 宗教知識と異文化理解

3年1組5番　井上佳恵

Keyword: 「宗教」「イスラーム」「異文化理解」「ハラール」「地理」

## 1. はじめに

私は宗教知識と異文化理解について探究した。この探究を始めたきっかけは、韓国を訪れて、現地の方とお話をした際に「宗教」が「文化」と強い繋がりを持つことに気づいたからだ。私は、スタディーツアーで韓国特有の文化について話を聞く機会があった。そこで、韓国には上下関係をとても大切にする文化があることを知った。理由を尋ねたところ、儒教が根付いているからとのことだった。このような経験から、宗教が人々の考え方や文化に大きく影響があることを知ったため、宗教と文化の関係に興味を持った。また、訪日や在日外国人の方が増えていく中、より良い関係を築くために何ができるのかを考えたいと思い、このテーマを選んだ。

## 2. 序論

「異文化理解を深めるためにはどのような知識を取り入れるべきか」を問いとし、「生活で顕著に見られる差異についての知識が必要である」と仮定した。また、その知識として宗教学、歴史学が必要であることも考えた。そこで、宗教的なルールの背景には文化が関係していると考え、ケーススタディとしてイスラム教、そして食文化であるハラールに注目して探究した。まずはじめに、本論文における文化について定義を確認する。デジタル大辞泉によると、「文化」は人類がみずからの手で築き上げてきた有形・無形の成果の総体。特に、哲学・芸術・科学・宗教などの精神的活動、およびその所産と定義している。(『デジタル大辞泉』ジャパンナレッジ)これに基づいて、この論文では文化を「人類が培ってきた有形・無形の総体で、建築物や宗教、哲学などで具体化されるもの」と定義したい。また手法としては文献調査を主とし、実践を通してどのような知識が必要であるかを調べた。

## 3. 本論

図1より来日や訪日の人口が年々増加していること、図2よりムスリム圏からの来日及び訪日が多いことがわかる。(文化庁，2013)また、日本国内で生産されるハラール商品は少なく、主に輸入品に頼っている。(農林水産省，2025)これは、日本国内における宗教の大部分を神道と仏教が占めているため、ハラールフードが浸透していないからだと考えられる。日本におけるムスリム人口が増える中で、宗教的配慮が求められるようになっているが、特にハラール対応など、食を通じた理解が大切であると私は考える。

図1

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ① | 中国（台湾含む） | 674,879 人 | ⑨ | インドネシア | 24,660 人 |
| ② | 韓国・朝鮮 | 545,401 人 | ⑩ | インド | 21,501 人 |
| ③ | ブラジル | 210,032 人 | ⑪ | ネパール | 20,383 人 |
| ④ | フィリピン | 209,376 人 | ⑫ | イギリス | 15,496 人 |
| ⑤ | ペルー | 52,843 人 | ⑬ | パキスタン | 10,849 人 |
| ⑥ | アメリカ | 49,815 人 | ⑭ | カナダ | 9,484 人 |
| ⑦ | ベトナム | 44,690 人 | ⑮ | バングラデシュ | 9,413 人 |
| ⑧ | タイ | 42,750 人 | ⑯ | スリランカ | 9,303 人 |

在留外国人の内訳（文化庁, 2013より引用）

図2

| | 仏教 | イスラーム | ヒンドゥー教 | キリスト教 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|
| タイ（2010） | 93.6% | 4.9% | 0.1% | 1.2% | 0.2% |
| ベトナム（1999） | 9.3% | 0.1% | - | 7.2% | 83.4% |
| インドネシア（2000） | 0.8% | 88.2% | 1.8% | 8.9% | 0.2% |
| フィリピン（2000） | 0.1% | 5.1% | - | 92.6% | 2.2% |
| インド（2001） | 0.8% | 13.4% | 80.5% | 2.3% | 3.0% |
| ネパール（2011） | 10.7% | 4.2% | 80.6% | 0.4% | 4.0% |
| パキスタン（1998） | - | 96.3% | 1.6% | 1.6% | 0.5% |
| バングラデシュ（2009） | 0.6% | 89.6% | 9.3% | 0.3% | 0.2% |

在留外国人の宗教別割合（文化庁, 2013より引用）

当初の仮定にはなかったが、地理的な宗教知識も不可欠であることがわかった。「異文化理解における地理・文化教育の重要性」(諸伏雅代, 2021)によると、宗教を理解するには地理的要因も併せて考えなければならないとある。例えば、日本では自然信仰が発達した。気候条件から、日本人は山や海などの自然に畏敬の念と愛着を抱くようになった。そこから、現象世界(人間が五感で認識できる物事で成り立つ社会)や、自然そのものを神聖視する信仰が生まれた。(和田素, 2012)また、後にインドから伝わった仏教と融合していった。また、他の例としてユダヤ教やイスラム教を挙げる。イスラム教やキリスト教はユダヤ教を基盤としており、「砂漠の宗教」と呼ばれることもある。キリスト教は、イエスが「ヤハウェの愛」を説いたため戒律主義でないが、ユダヤ教やイスラム教は、旧約聖書やコーランに記された規範を厳守しなければならないという考えをもつ。この理由について、「世界の宗教と戦争講座」で井沢元彦(2013)は、これらの宗教が環境の厳しい砂漠で生まれたためだと述べている。砂漠はわずかな出来事が命に関わることもあるため、人々は神を「与える存在」ではなく「奪う存在」であると捉えるようになったのである。この考え方は、宗教が環境と強く結びついていることを示している。このように、地理的要因から宗教観を理解することは、異文化理解においても重要である。

ムスリムの食文化についても詳述する。イスラム教の教典クルアーンには食事のルールの一つとしてハラール、ハラーム、シュブハについて記載されているハラル・ジャパン協会によると、「ハラールとは神と預言者ムハンマドに許された食べ物のことである。一方、ハラームは食べることを禁止されたもので、豚肉やアルコールおよびそれらが使用された食べ物が挙げられる。最後に、ハラールとハラームの中間に存在するシュブハは、自分自身で判断できないものを指す。」(ハラル・ジャパン協会, 2023, https://jhba.jp/halal/) 地理的背景を踏まえて考えてみると、ハラールは単なる規定ではなく、衛生面なども考慮された生きるための知恵として砂漠文化と結びついたと考えられる。

次に、実践を通して宗教理解を試みるため、私は学校の購買にハラール表示を置くことを計画した。購買で売られている商品がハラールであるかを調べ、豚肉やアルコール不使用というポップを作ることを目標にした。しかし、購買の方へのアンケート調査で、メニューの変動が激しいため困難であるとのご回答をいただいたため実現はできなかった。よって、代案として自動販売機にハラール表示を貼る計画を立てた。実現までに時間を要すること、こちらも季節ごとにメニューが変動することを考慮し、今回は夏季の場合のハラール表示についての計画書をpdf形式で以下に添付する。計画書を提示することにより、自身の宗教知識を深められるとともに、異文化理

解へと繋がる実践的な学習が可能である。

# 自動販売機へのハラール表示導入計画書

令和7年10月9日

所属ゼミ：理解と尊重

氏名：井上佳恵

【背景】

国際高校には留学生が在籍しているため、配慮が必要である。また、今後さらに多様な文化を持つ人々との交流があると想定される。そのため、様々な文化への理解が必要である。特に、イスラム文化におけるハラールへの認知が必要である。これは、人口が多いうえ、食事に関して制限が存在するからである。

【目的】

留学生が安心して自動販売機を使用できるようにサポートすること、国際高校生として、宗教や文化によっては制限があることを広めること。

【実施内容】

学校に設置されているコカコーラ社自販機の夏季の飲料を調査し、ハラール(イスラム教徒であっても飲めるもの)とハラーム(イスラム教徒であれば飲めないもの)に分類する。次に、結果を表にまとめて自販機の空きスペースに掲示する。必要に応じて英語表記にする。

No pork

【期待される効果】

安心して飲料を選べる環境、ハラールについての関心の高まり、制限のある文化が存在することへの認知の促進

【想定される課題と対策】

課題:季節によって販売される飲料の変動があること
対策:季節に影響されない定番飲料のみ表示をつけること

【今後の展望】

一社の自販機で二週間試験的に導入した後、効果を見ながら3ヶ月以内に他の自販機にも広げていく。

4. 結論

宗教的な知識を地理や歴史など様々な方向から捉えることで、他者の考えや行動をより深く理解することができることがわかった。また、食文化を異文化理解の入り口にすることは難易度が低いため効果的であると感じた。今回のイスラームにおけるハラールのように、ルールの背景を調べて考察することの大切さにも気づいた。今後は、宗教を文化の一部として意識し、さらに理解を広げたい。

5. おわりに

探究を通して、自分自身の「イスラーム」の捉え方が大きく変化した。今までは、豚肉やアルコールが禁止されていることに対して、制限があって大変だろうと考えていた。しかし、彼らにとってそれは、生きることを支える文化であることに気づいた。これからは、現状という表面的なことだけではなく、背景も知ろうとする姿勢を大切にしていきたい。

6.参考文献・出典

CNN.co.jp ,「世界で信者数が最も伸びるのはイスラム教　米調査機関」, 2017.03.17 Fri posted at 10:53 JST, https://www.cnn.co.jp/fringe/35100119.html, 2023年12月18日

井沢元彦(2013), 世界の宗教と戦争講座, 徳間書店, 2024年2月2日

和田素,「日本人の持つ宗教観　日本人はなぜ無宗教なのか」,『神奈川大学人文学会学生研究発表誌』, 第12号, p14-21, 2012
http://human.kanagawa-u.ac.jp/gakkai/student/pdf/i12/120314.pdf (2024 8−20)

文化庁文化部宗務課,「在留外国人の宗教事情に関する資料集ー東南アジア・南アジア編ー(平成24年度宗教法人等の運営に係る調査委託義務)」 ,『文化庁』, https://www.bunka.go.jp/, 2024年1月9日

“ぶん-か【文化】”, デジタル大辞泉（小学館）, ジャパンナレッジ school,https://school.japanknowledge.com,（参照日：2025/2/11）

一般社団法人ハラル・ジャパン教会,「ハラル基礎知識」, ハラル（ハラール）基礎知識一般社団法人ハラル・ジャパン協会https://jhba.jp › halal, 2024年1月9日

諸伏雅代,「異文化理解における地理・文化教育の重要性」,『現代社会研究』19号, https://toyo.repo.nii.ac.jp/record/14086/files/gendaishakai19_119-127.pdf , 2021年

農林水産省,「ハラールに関する基礎情報」, https://www.maff.go.jp/j/yusyutu_kokusai/kokuchi/halal.kosher/attach/pdf/index-6.pdf, 2025年9月27日